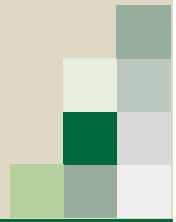




FRB保有資産縮小開始の発表をうけた 足元の米国金利と為替の動き



9月20日、FOMC(米連邦公開市場委員会)の声明で、保有資産の縮小を10月から開始することが表明されました。

資産縮小計画(概要)

保有する証券の元本支払い分の再投資を減らすことによって、保有資産を段階的に縮小。
具体的には、約4.5兆米ドルまで膨らんだ保有資産を以下の方法で段階的に縮小。

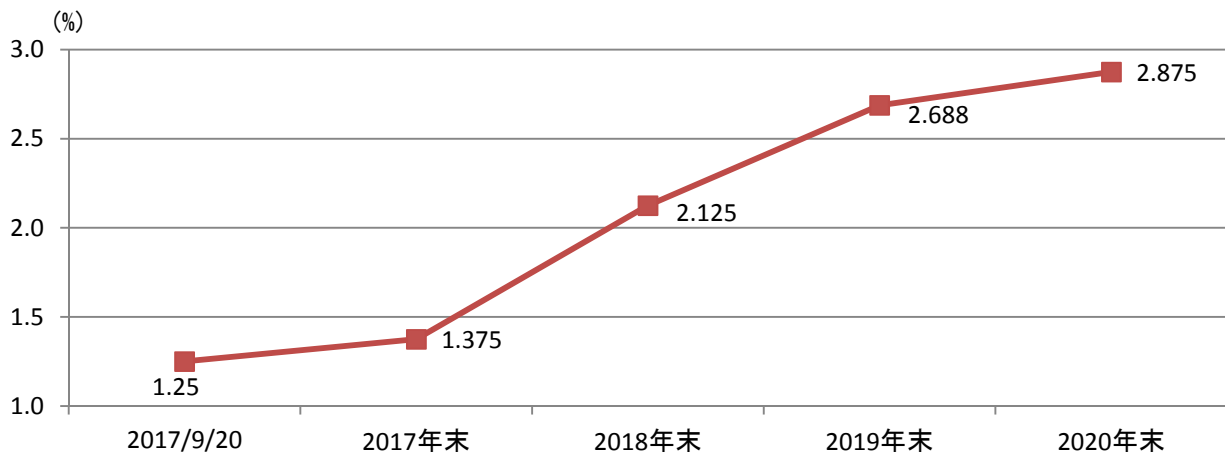
- 償還を迎えた米国債について、縮小幅を当初は月60億米ドルとし、3ヵ月毎に60億米ドルずつ、月300億米ドルに達するまで継続。
- 政府機関債と住宅ローン担保証券(MBS)について、縮小幅を当初は月40億米ドルとし、3ヵ月毎に40億米ドルずつ、月200億米ドルに達するまで継続。

加えて、FRB(米連邦準備制度理事会)は、縮小幅が最大値(最大で年6千億米ドルとなる見込み)に到達した後もそのまま維持、証券保有が金融政策を効果的に実施するのに必要な規模を超えていないと判断するまで、段階的に縮小しつづけることが想定されています。

利上げは見送られたものの、金融引き締め方針は継続

今回のFOMCでの利上げは見送られましたが、金融引き締め方針に変更はなく、FOMC後に公表された参加メンバーによる政策金利見通しでも、年内に追加利上げ1回、2018年に3回の利上げが予想(中央値)されています。短期金利もこの動きに追随し、上昇していくものと予想されます。

FOMC参加メンバーによる政策金利(中央値)予測 (2017年9月20日時点)



出所:FRBのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

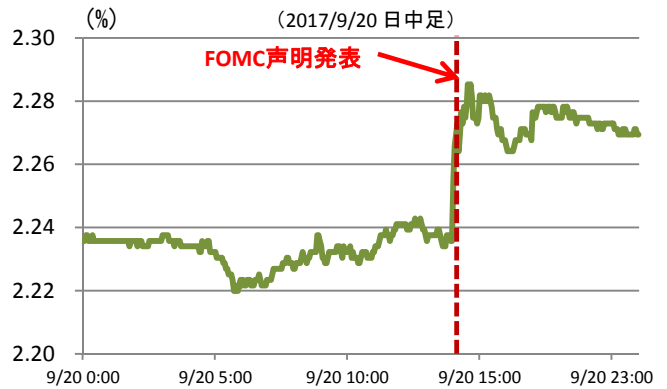
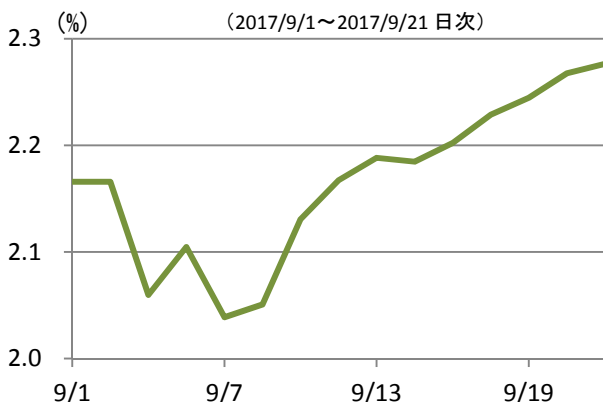
国債利回りは上昇

FOMCの声明発表後、米国債の需給が緩和するとの見通しから、国債利回りは上昇しました。今後も、段階的な保有資産の縮小によって、長期金利に対して継続的な上昇圧力がかかるものと予想されます。

日米金利差拡大を見込み円安が進む

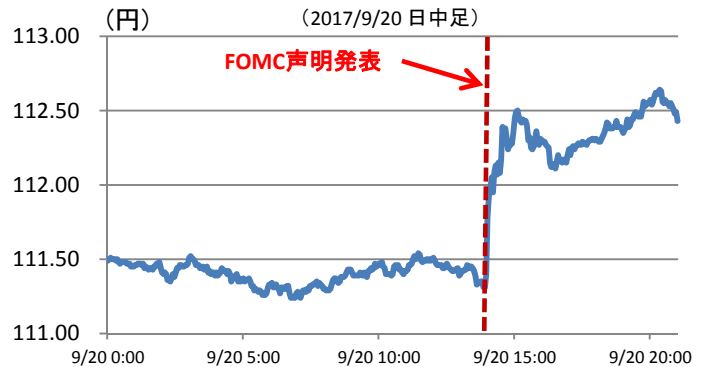
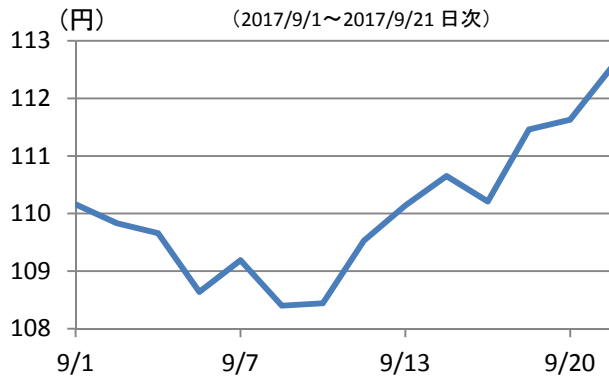
今回のFOMCにおいて、米国の金融引き締め方針が再確認される一方、日銀による金融政策決定会合(9/21まで開催)においては、現行の金融緩和策の維持が決定されました。結果、日米の金利差が拡大するとの見通しから、為替市場においては、米ドル/円レートは20日の1米ドル=111円半ばかり、21日は112円台へと円安が進みました。

米国10年国債利回りの推移



出所:ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

米ドル/円の推移



出所:ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社が作成

※当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保証するものではありません。

[当資料に関する留意事項]

- 当資料は、マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます)が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、特定の投資商品の推奨を目的としたものではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容およびコメントは資料作成時点における経済・市場環境等について当社の見解を記載したもので当該見解は予告なく変更される場合があり、将来の経済・市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 投資信託のお申込みの際は、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)で商品内容をご確認の上、ご自身で投資のご判断をお願いいたします。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。

マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第433号
加入協会:一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会